

あなたの胃にもピロリ菌が？

ピロリ菌 Q & A



【ピロリ菌ってどんな菌ですか？】

ピロリ菌は正式にはヘリコバクター・ピロリという細菌で、1983年にオーストラリアのウォレンとマーシャルによって発見されました。ピロリ菌が胃・十二指腸潰瘍などの原因になっている事がわかり、ウォレンとマーシャルは2005年にノーベル医学生理学賞を受賞しています。

【ピロリ菌はどうして胃の中で生きていられるのですか？】

胃の中は胃酸が出ているため、通常の菌は死んでしまいます。ピロリ菌は特殊な酵素をもっており、アンモニアを発生して、胃酸から身を守っているため、胃の中で生きることができます。

【ピロリ菌はどのような疾患を起こすのですか？】

ピロリ菌に感染すると全員がヘリコバクター・ピロリ感染胃炎を引き起こします。ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は慢性活動性胃炎ともいわれ胃粘膜に多数の白血球の浸潤を伴う胃炎です。

ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は消化性潰瘍、胃MALTリンパ腫、機能性ディスペシア(FD)、胃ポリープ、特発性血小板減少性紫斑病(ITP)を引き起こし、萎縮性胃炎を経て一部は胃がんを引き起こすことが知られています。今回、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎に除菌の適用拡大がされたので胃がんを含むヘリコバクター・ピロリ感染胃炎に基づくほとんどの疾患を抑制できる可能性があります。

【ピロリ菌はどのように感染するのですか？】

どのように感染するかはつきりわかっていませんが、口から感染するのが大部分であると考えられています。衛生環境と関連していることが報告されて、感染する機会は減ってきていると考えられています。

【ピロリ菌はどのくらいの人が感染しているのですか？】

日本人のピロリ菌感染者はおよそ3500万人といわれています。ピロリ菌は特に50歳以上の人で感染している割合が高いとされています。しかし衛生環境が整ったことによってピロリ菌に感染している割合は減少しており若い世代では低くなっています。今後はますますピロリ菌に感染している人は減っていくと予想されています。

【ピロリ菌は胃・十二指腸潰瘍と関係があるのですか？】

ピロリ菌に感染すると胃に炎症を起こすことが確認されています。胃・十二指腸潰瘍の感謝さんでピロリ菌を検査すると、約90%の患者さんがピロリ菌に感染していて、ピロリ菌が胃・十二指腸潰瘍の原因になっていることがわかっています。ピロリ菌がいる場合には1度、潰瘍の治療をしても1年後には60%以上の患者さんが再発してしまいます。ピロリ菌を除菌することによって胃・十二指腸潰瘍の再発率は著しく低下することが認められています。

【ピロリ菌の除菌治療はどのようにするのですか？】

2種類の抗生物質と胃酸を抑えるおくすりの3種類のおくすりを朝と夕方に1日2回1週間しっかりと続けて飲むことで約70%~80%の患者さんはピロリ菌を除菌できます。1回目の除菌治療で除菌出来なかった場合にはおくすりを変えて再度除菌治療を行うことが可能です。2回目の除菌治療では約90%の患者さんで除菌ができます。除菌が成功したかどうかは除菌終了後4週間以上あけて検査をすることでわかります。

【除菌治療による副作用はどのようなものがありますか？】

除菌治療の主な副作用で以下のものが報告されています。いずれも除菌治療時の一時的なものであると考えられています。

- 1 下痢・軟便
(下痢を起こしたり便がゆるくなったりします。)
- 2 味覚異常
(食べ物の味を苦く感じたり、おかしいと感じたりすることがあります。)
- 3 AST(GOT)・ALT(GPT)の変動
(肝機能の検査値が上がるがあります。)